

# 「介助犬とオキシトシン」



代表取締役会長 赤津 功一氏

東京の立川駅や神奈川県相模大野の駅頭で、「日本介助犬福祉協会」さんが、幟をたて介助犬と共に募金活動をされているのをよく見えています。そして、暑い日や寒い日は如何ばかりかと案じてはいました。

まず、当会のHPが面白いのです。「活動日記」コラムの最新に、「毎日の歯磨き習慣」が書かれています。読むと、それはユーモアたっぷりでおもしろく、又、歯磨きをするには何が必要かも自然に分かるようになっていきます。

彼らは歯みがきをしようとすると、一斉に寝たふりをすると書かれて、思わず吹いてしまいます。(笑) 続けて、順番が来るとおとなしく歯磨きをさせていくとあります。そして、歯磨きが出

来るのも、子犬時代からのコミュニケーションや人との信頼関係が大切だと、喝破し結んでいます。

私も21年前の創業時から、人とペットとの共生のシンボルとして「歯磨き」をさせる目標に商品づくりをして来ています。

今、ペット市場でようやく歯磨きは話題になってきています。唯、未だに飼い主の多くの人達が、愛犬への歯磨きがうまく出来ないのです。当会風に言えば、子犬時代からの飼い主とのコミュニケーションや、信頼関係が出来ているようであればいいと言いたいことになるのかもしれませんが。

さて、最近麻布大学で発見された、人と犬とのオキシトシン効果が新聞に発表されて大きな話題になりました。従来は人と人は癒される気持を感じても、他にはないとの定説でした。しかしこの記事によると、人と犬の間で、心が癒されると言う空間が証明されたのです。

介助犬とその利用者との交流はまさにそのオキシトシン効果の最たるものではないでしょうか？ 無償の喜びを心で感じ合っているのでしょうか。介助犬のキャップを開ける仕草、袋を破る仕草は利用者への気配り十分です。介助犬の無心で健気な振る舞いは、それを見る人々に感動と涙を誘うに十分でした。私どももこういうご縁を頂いてありがたく感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。

日本介助犬福祉協会  
厚生労働大臣認定法人  
設立1987年

企業  
訪問

TAURUS

トールス株式会社  
からのメッセージ

<http://www.taurus-net.co.jp>

## 「ちよ」の訪問

CYBERDYNE



湘南ロボケアセンター訪問 (CYBERDYNE社)

訪問日時・2015年12月1日

文章・柳 真由

ロボットスーツHAL®を用いた運動機能トレーニング (HALFIT®) を行っている「湘南ロボケアセンター」を訪問。ロボットスーツHAL®は、装着する人の立ちたい、歩きたいという「意思」(生体電位信号) を感知して、その動作をアシストする世界発のサイボーグ型ロボット。脚に障がいのある方や足腰が弱った方の身体動作を脳からの指令(動作意思) をキャッチし、HAL®が補助する。トレーニングを継続して行う事で、身体動作がスムーズになったり、HAL®を装着しなくても身体機能が向上していくことを目標としている。

「ロボットスーツHAL®」を開発したのがCYBERDYNE株式会社。

湘南ロボケアセンターの利用者の6割は60代以上だが、10代々の利用者もいるそうです。HAL®を用いてのトレーニングは、病院やリハビリセンター、特養ホーム、デイサービスなどで徐々に広まりつつある。製品が出来たのは5年前だが、現在日本国内では400台のHAL®が180施設で利用されている。

老化による機能低下だけでなく、脳性麻痺、脊椎損傷、脳卒中などの疾患による身体障害など利用者は様々だが、脳性小児麻痺などは比較的效果が表れやすいそう。

150cm以上の身長があれば装着可能。現在小児用のHAL®を開発中。対象は4〜5歳程度。何よりも大切なのはトレーニングを行う方自身が、今ある現状をHAL®を使用してどうなりたいか? という目標意識が必要だと話されていた。

現在、保険は適用外の為、自費でのトレーニングになっているが、藤沢市では対象者には助成制度で行えるとのこと。介助犬とどのように繋げていくのか? HAL®の装着を介助犬が手伝う。トレーニングに来所する際、またトレーニングを行う際に、介助犬が傍でサポートする。など今後の参考課題として捉えて行きたいと思っています。